

3・11後に思想家を読む 夢よりも深い覚醒のために 大澤真幸

3

01 ジャン・ジャック・ルソー 「市民」であるとはどういうことか？  
上野大樹

15

02 イマヌエル・カント 「小さきもの」の定言命法  
蓮尾浩之

29

03 ウラジーミル・イリイチ・レーニン 電気の誕生とカーニヴァル  
今田勝規

43

04 マルセル・モース 挑戦としての贈与  
倉島哲

57

05 九鬼周造 偶然性と共に生きる  
小倉敏彦

73

06 マルティン・ハイデガー 地球に人殺しではなく詩人として住むために  
和伸一郎

85

07 ギュンター・アンデルス 「時代おくれの人間」として在ることとは  
加藤裕治

103

08 ハンス・ヨナス 震災以後の社会で果たすべき「責任」とは  
蓮尾浩之

117

09 ハンナ・アーレント 政治と生命／生活の再定義にむけて  
高谷幸

131

10 レイチェル・カーソン 「べつの道」の可能性  
木村純

143

11 ジョン・ロールズ ロールズ正義論の「救済」  
西川純司

153

12 ニクラス・ルーマン 「経験主義」のラディカリズム  
北田暁大

163

13 網野善彦 「無縁」の否定を超えて  
中森弘樹

173

14 バーナード・ウィリアムズ 道徳における運  
吉川浩満 185

15 チャールズ・テイラー 世俗社会の苦難を直視する  
橋本努 197

16 見田宗介 三代目への社会へ  
大澤真幸 209

17 高木仁三郎 3・11を予言した市民科学者の両義性  
武田徹 227

18 ジャン・ピエール・デュピュイ 灰をかぶったノアに人々は協力する  
大澤真幸 239

19 柄谷行人 『世界史の構造』―3・11後の思想的射程  
高澤秀次 257

20 今村仁司 贈与と負い目の哲学  
山田登世子 271

21 ジョルジョ・アガンベン 新たな例外状態と「剥き出しの生」  
鶴飼大介 283

22 ウルリッヒ・ベック リスク社会と福島原発事故後の希望  
柴田悠 293

23 ティム・インゴルド 「生きていること」から始める  
柳澤田実 313

24 汪暉 「アジア想像」の時代へ  
丸川哲史 325

25 レベッカ・ソルニット ユートピアの可能性  
菊池哲彦 337